

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、学校運営協議会の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い次のとおり書面開催としましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 県立長良高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和4年2月1日(火)
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者

会長	渡辺 玲	前PTA会長
副会長	三井 栄	岐阜大学社会システム学環 教授
委員	有田 誠二	39期同窓生
	安藤 剛	同窓会副会長
	梅村今日子	令和3年度 PTA 2年学年委員長
	岡田 尚子	令和3年度 PTA 3年学年委員長
	丹羽 美彦	岐阜市立東長良中学校長
	福島 明美	40期同窓生
	益子 典文	岐阜大学附属学習協創研究センター 教授
	増田 勝美	長良東自治会連合会会長
学校側	大坪一才恵	校長
	小里 靖	教頭
	近本 彰	教頭
	岡野 健司	教務主任
	富田 充弘	進路指導主事
	美濃島広幸	生徒指導主事

4 会議の概要(協議事項)

- (1) 令和3年度現状と課題及び課題解決のための方針(案)について
 - ・令和3年度教育指導の重点及び学校経営計画
 - ・令和3年度自己評価・学校関係者報告書(教務部・生徒指導部・進路指導部)
- (2) スクール・ポリシー策定について(案)
- (3) 校則(生徒心得)改正にかかる条文追加について

5 意見聴取

- (1) 令和3年度現状と課題及び課題解決のための方針について

①全体について

意見1: 高等学校版マニフェストに記載の「目指す生徒像」《知育》・《徳育》・《体育》の内容と、スクール・ポリシーの「育てたい生徒像」に記載される《知育》・《徳育》・《体育》の内容が微妙に違って、分かりにくいのではないかと。「目指す生徒像」と「育てたい生徒像」は統一を図ることを検討されたい。

- 意見2：10項目5段階評価のアンケート（平均全体4.44「わかりやすい授業」4.55）について、評価指標に対する評価基準が示されていないため評価しにくい。
- 意見3：徳育(挨拶、身だしなみ、時間厳守、環境整備等)について、生徒アンケート及び保護者アンケートで評価しているが、客観的に評価するべきである。
- 意見4：進学実績に関して、入学時の成績から3年後までを見通し、どのようにして学力向上を図るかが重要である。文武両道については、進学校の中でも部活動実績が高いため入部を断念したといった事例を耳にしたことがある。部活動以外で生徒が活躍できる場の設定が必要ではないか。
- 意見5：コロナ禍で最大限に生徒の活動やチャレンジする機会を作っていることや修学旅行、文化祭等の実施を含め感謝している。生徒の表情が印象的である。日々、教職員が生徒に寄り添っていることを実感している。

②教務部について

- 意見1：授業評価を含め、先生が日々尽力している取組において高い評価となるものがあるのではないかと。
- 意見2：中学校と比較して学習進度が速いため、生徒の躓きを見逃さないよう一人一人に目が届く授業を望んでいる。ICT機器を活用した授業や地域共創といった取組は引き続き注目したい。
- 意見3：緊急時のオンライン学習支援の対応に感謝している。
- 意見4：ICT機器の活用が必然となった一年であった。タブレットの配布など素早い対応に感謝している。
- 意見5：ICT活用による学習支援が学習理解につながっていると回答した生徒割合が、他の項目より相対的に低いのではないかと。(69%)その原因の検証が必要と考える。

③生徒指導部について

- 意見1：学業に関する不安、人間関係、SNS関連事案等、コロナ感染症拡大の影響もあり、心身へ支障をきたす懸念が高まり、一層の注視が求められている。
- 意見2：コロナ禍で対応が大変かと推察される。先生と生徒、生徒同士でしっかりとコミュニケーションが取れるとよい。挨拶や身だしなみについては問題ないかと考える。
- 意見3：社会全体で様々な不安を抱える人が増加しているように感じる。今まで以上に声掛けや相談を充実していただけることを切に願う。更に講演等でもSNS対策、モラルに関する取組を充実する必要があるのではないかと。

④進路指導部について

- 意見1：「国公立大学現役合格100名以上を目標とする。」とあるが、これまでの実績137名⇒143名⇒145名と合格者が増加しているため、目標設定値の見直しが必要と考える。
- 意見2：1、2年生の早い段階において、卒業生(大学生)による交流会や大学による模擬講義等は具体的な進路決定に有効と考えるため、前向きに導入を検討してほしい。
- 意見3：国公立大学合格者数を目標値としつつ、卒業生が大学に進学した後のミスマッチが無いよう、進路選択するまでに生徒が望む将来像に近づけられるよう情報提供や相談できる機会を望む。
- 意見4：担任、進路指導の先生との面談を何度も繰り返し、安心して受験を迎えることができている。進学後の目標などを踏まえた進路相談内容となっており、目標自体が明確に持てるようになっている。

(2) スクール・ポリシー策定について

意見1：カリキュラム・ポリシーの2つ目に、グローバル化に対応するコミュニケーション能力（使える英語）とあるように、国際的素養にも（ ）書きで簡単な説明を加えた方が良いのではないかと。

意見2：グラデュエーション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの関連性を明示された方がよい。

（修得すべき能力を具体的にどう育成するか、そのために入学時に求める能力は何かなど）

意見3：「知徳体のバランスの取れた指導→生徒像」を理想とする。

意見4：いずれポリシーに沿った評価が必要になると考える。具体的な入試方法、カリキュラム構成などに関連づけられるようなものであるとよい。

(3) 校則（生徒心得）改定にかかわる条文について

意見1：校則の改定については、「学校運営協議会での議論を踏まえて、校長が決定する。」とあるが、最終決定機関は職員会議になるのか。

6 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会における学校評価に関する意見を来年度の学校運営の立案等に活かしていく。